九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# D-dimer screening for deep venous thrombosis in traumatic cervical spinal injuries

益田, 宗彰

https://hdl.handle.net/2324/1932002

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

| | |
|---|---|
| 氏　　名 | 益田　宗彰 |
| 論　文　名 | D-dimer screening for deep venous thrombosis in traumatic cervical spinal injuries |
| 論文調査委員 | 主　査　　九州大学　　教授　　康　　東天<br>副　査　　九州大学　　教授　　鴨打　正浩<br>副　査　　九州大学　　教授　　北園　孝成 |

## 論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

急性期頚椎頚髄損傷患者は治療上並びに頚髄損傷の結果の四肢の麻痺などの結果、安静が必要となる期間が長くなる傾向があり、深部静脈血栓症（以下ＤＶＴ）発症のリスクが高い疾患であるため、DVT の早期発見、発症予測マーカーの発見が求められている。そこで申請者は急性期頚椎頚髄損傷患者のＤＶＴの補助診断ツールとしてのD-ダイマーの検査時期、至適閾値の設定を目的として前向き研究を行った。

2007 年 4 月 1 日以降、2012 年 12 月までの期間、受傷後 14 日以内に総合せき損センターへ搬入された、外傷性頚椎頚髄損傷患者を対象とした。当センターの前向きプロトコールとして、入院時、入院（受傷）後２週、４週の時点で計３回下肢静脈エコーを行い、D-ダイマーは入院後４週目まで毎週測定した。対象患者は計 268 名（男性 223：女性 45）であり、ＤＶＴ陽性は 22 名（10.4%）で、すべて受傷後２～４週の間に発見された。多変量ロジスティック解析により、ＤＶＴ陽性の優位な危険因子として受傷後 2 週目の D-ダイマー16μg/dl で感度 77.3%、特異度 69.2%となり、発症予測マーカーとしてこの検査をスクリーニングに追加検査することが臨床的に有用であると考えられた。

発表のあと、専門的立場から種々の質問を行ったが、おおむね適切な回答を得た。よって主査副査3人の委員の合議の結果、試験は合格とした。